



# 上向台小だより

3月号

西東京市立上向台小学校

令和6年3月1日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>



## 自立した学習者となることを目指して～主体的に学び続ける力の育成～校長 酒見 裕子

令和2年2月27日午後6時半、全国の学校関係者に激震が走りました。当時、私は教育委員会で、安倍元総理大臣の会見をテレビで見っていました。まさか全国の学校が一斉休校になるなんて…。この一斉休校は、学校の脆弱性を浮き彫りにしました。それまでの対面指導や紙媒体を用いた指導が中心の学校は、電話で全校児童に連絡することも難しく、プリントや教科書の配布にも、郵送や分散登校などの方法を取らざるを得ませんでした。また、子どもたちや教員、保護者が相互に繋がる手段や機会が不足し、大きなストレスにもなりました。

さて、今はどうでしょうか？あのときの一斉休校とは違い、一人1台端末が入るなど、ICT環境が整いました。オンラインを活用して同時双方向で繋いだり、課題を配信したりするなど、教員も予測困難な変化に主体的に向き合い、協働しながら新たな指導方法にチャレンジしています。

当時、私は学習することに受け身な子どもたちの状況を見聞きし、主体的に学習する方法や問題解決能力を、学校で十分に身に付けさせられていなかったのではないかと感じていました。

そこで、未来に向けた学びとして、先生が一方的に教えるインプット中心の教育から、子どもたちが主体的に学び、学んだことを表現するアウトプット中心の教育に変えていくためには、どのようにしたらよいか、専門家の方のお話や文献から学び、教育施策や教員の研修等に生かしてきました。

そのときに学んだことですが、子どもたちが主体的に学び続けることができるようにするためには、まずは、子どもが主体的になる余地をどのようにつくるのかを考えることが大切であること。そして、粘り強く試行錯誤したり、失敗やつまずきの経験から学んだりすることが大きいことを学びました。大人たちがよかれと思ってしていることが、実は与え過ぎていたり、準備し過ぎていたりすることが往々にしてあるからです。子どもたちは、ある一定の知識やスキルがあれば、大人が思っている以上に自分の力でできるものです。質のいいヒントこそ大切だと学びました。

.....

また、昨年12月5日には、OECD生徒の学習到達度調査（PISA2022）の結果が発表されました。コロナ禍を経て4年ぶりとなる今回、日本の子どもたちは、OECD37か国のうち、「数学的リテラシー」と「科学的リテラシー」で1位、「読解力」は2位という結果となり、その成果が大きく報道されました。

一方、課題として、「学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか」という質問に対する回答で、「自信がない」と回答した生徒が日本は非常に多くいたのです。（なんと37か国中34位でした。）

私は、このような質問に「自信がある」と答えられるような学びができるようにしていきたいと考えています。

これまで、教師は、決められた学習内容を、決められた時間で、最善の方法を考えて、一生懸命に授業をしてきました。しかし、それは、子どもたちの学びを、ある範囲の中に閉じ込めてしまうものだったのかもしれない。

子どもたちが生きていく新しい時代が、私たちの想像を超えたものであることは間違いありません。これまでは、学んで得た知識や技能をたくさん蓄積していることが、学力と考えられていました。しかし、これからの時代は何を学んでおけばよいのか、予測がつかない時代を迎えています。そのため、これからの時代に求められる学力は、今までと全く同じというわけにはいかないでしょう。

冒頭のような感染症等の非常時のみならず、これからの変化の激しい社会を生き抜いていく子どもたちには、将来、教師が近くにいなくても、自力で学びを進めていけるように、普段から主体的に学び続けることができる経験を積み重ねられるようにしていきたいと考えています。

今年度、そのような力を育むために、児童一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて学習や学ぶ方法等を選択できるような環境を整えるなど、自立した学習者の育成に向けた取組を進めてまいりました。さらに次年度は、このような取組に加え、よい変化を起こそうと、自分で課題を設定し振り返り、責任をもって行動する力を育成できるように、教育活動を進めてまいります。

ぜひ、御家庭においても、お子さん自身が解決できるような身近な問題については、自分自身で決定する経験を多く積ませてもらいたいと思います。小さな選択を繰り返し、たくさんの失敗や成功を経験することで、自立した学習者となることを目指していきたいと考えています。

### <保護者・地域の皆様へ>

4月に初めて本校に着任し、保護者や地域の皆様のお力添えがあり、無事に1年が過ぎようとしております。心から感謝申し上げます。

今後も子どもたちのために、共に学校をつくっていただけたらと思っています。御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。